



ラムサール COP15 現地レポート
2025.07.23～31@ジンバブエ・ビクト
リアフォールズ

2025/07/26 報告者：永井光弘

○決議案審議の傍聴

本会議場では、本日から各種決議案についての審議が始まりました。
資金動員に関する決議で、早速、日本の代表団が「しっかり支える」との決意表明をしてい
ました。



その他、大事な決議案（下記）については、事前に何本か予習していました。審議過程
も含めきちんと確認するためです。

- ・ 「ラムサール条約第5次戦略計画 2025-2030」に関する決議案
- ・ 「コミュニケーション、能力養成、教育、参加、普及啓発（CEPA）」に関する決議案
- ・ 「生物多様性と生態系サービスという生態学特徴を維持しながら劣化した淡水生態系の再生を求める」決議案
- ・ 「水鳥のフライウェイの保全・再生に向けた各締約国内の取組み強化」に関する決議案
- ・ 「OECM として湿地の公平なガバナンスと効果的な保全の達成を求める」決議案
- ・ 「ユース（若者）のエンパワーメントと統合」に関する決議案
- ・ 「南米とアジアにおける湿地の保全と持続可能な利用のため指標種としてのカワイルカ

の認識を求める」決議案

すごく勉強していたように聞こえますが、上記決議のほとんどは、今回 COP に参加するユース（高校生から社会人まで 5 名ほど）と一緒に予習したものです。国際会議経験承継事業の一環として、7 月上旬に 6 回ほど Zoom 会議を行い、決議を荒訳してポイントを議論しました。ユースのみならず、私や後藤さんも、柏木さんの蘊蓄をたくさん聞くことができ勉強になりました。

意気込んで「第 5 次戦略計画」決議案の審議を傾聴したところ、さらに多くの締約国の意見を集めて下準備するとのことで、コンタクトグループ参加国を募っただけでした。明日以降にしっかり動向を注視します。

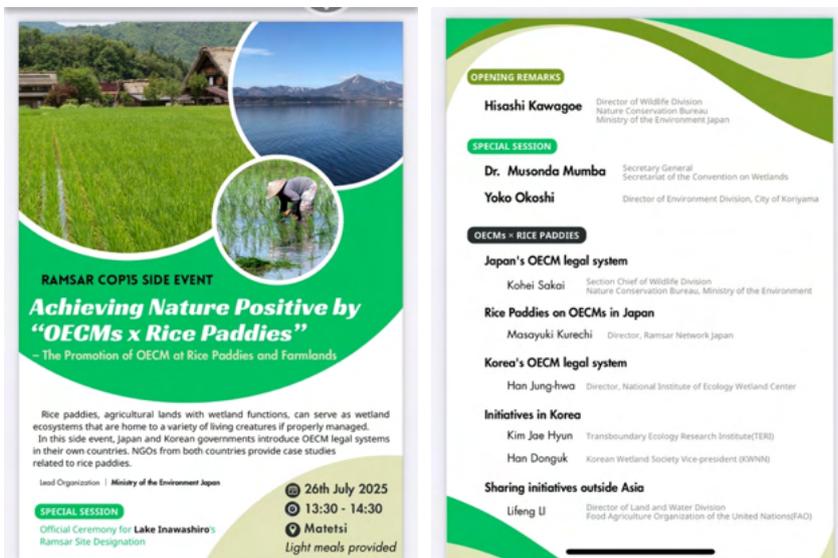
同じく本日に審議された「淡水生態系」に関する決議案は、ほぼ満場一致で採択方向です。ただ、多くの国が決議案の文言について修正案を出す模様です。個人的には、パラ 15 の“such as the removal of barriers to restore free-flowing status of rivers or the restoring or rewetting of peatland” という例示部分は、今後のダム撤去やPEATランド再生を推進するため、ぜひ残してほしく、動向を注視します。

[編集註：議案書は[このリンク](#)からダウンロードできます]

○サイドイベントの主催

今日は、ラムネット J も関与して行う、環境省主催『OECM と田んぼで達成するネイチャーポジティブ プラス 猪苗代湖ラムサール登録認証セレモニー』が、昼のサイドイベントとして挙行されました。

もともと別の 2 つのサイドイベントとして申し込んでいましたが、会場の少なさのため統合され、このような形になりました。猪苗代湖パートは、本来、条約事務局長ムソンダ・ムンバさんが立ち合って認定証を手渡す予定でしたが、ご都合で出席を得られませんでした（註：その日の夕方には、ムソンダさんを交えて認証式が行われたそうです。猪苗代関係者がたくさん来ていたのでよかったです）。



RAMSAR COP15 SIDE EVENT
Achieving Nature Positive by "OECMs x Rice Paddies"
- The Promotion of OECM at Rice Paddies and Farmlands

Rice paddies, agricultural lands with wetland functions, can serve as wetland ecosystems that are home to a variety of living creatures if properly managed. In this side event, Japan and Korean governments introduce OECM legal systems in their own countries. NGOs from both countries provide case studies related to rice paddies.

Lead Organization | Ministry of the Environment Japan

26th July 2025
13:30 - 14:30
Matetsi
Light meals provided

OPENING REMARKS
Hisashi Kawagoe Director of Wildlife Division
Nature Conservation Bureau
Ministry of the Environment Japan

SPECIAL SESSION
Dr. Musonda Mumba Secretary General
Secretary of the Convention on Wetlands
Yoko Okoshi Director of Environment Division, City of Kanagawa

OECMs x RICE PADDIES
Japan's OECM legal system
Kohei Sakai Section Chief of Wildlife Division
Nature Conservation Bureau, Ministry of the Environment
Rice Paddies on OECMs in Japan
Masayuki Kurechi Director, Ramsar Network Japan
Korea's OECM legal system
Han Jung-hwa Director, National Institute of Ecology Wetland Center
Initiatives in Korea
Kim Joe Hyun Transboundary Ecology Research Institute(TERI)
Han Donguk Korean Wetland Society Vice-president (KWWNS)
Sharing initiatives outside Asia
Lifeng Li Director of Land and Water Division
Food Agriculture Organization of the United Nations(FAO)

「OECM と田んぼ」パートは、ラムネット J が環境省と相談しながら韓国 NGO (KWNN) と協力して企画を練ってきたもので、日韓両国政府の発表、日韓両国 NGO (ラムネット J と KWNN) の報告、FAO (国連食糧農業機関) の報告と、盛りだくさんで行われました。



キャパ 50 名の会場に 80 名以上が訪れ、満員御礼となりました。今回は全体で 1 時間と時間的に極めてタイトだったので、ディスカッションの時間が取れず残念でした。田んぼを OECM (Other Effective Area based Conservation Measures=自然共生サイト) と捉えること〔保護区ではないがこれに準じた保護を行って、陸地 30%以上の保護区域化を求める昆明-モントリオール目標 3 (30%の再生) を達成する〕につき、アジアだけでなく米作する一部アフリカや、米作しないヨーロッパなどとも議論したかったのですが、果たせませんでした。

WWN のコーナーがサイドイベントを技術的に全世界に配信可能としてくれ、日本からはラムネット J の原野さんに音声の状況や画面の状況をアドバイスいただき、ジンバブエから世界へうまく中継できたと思います。

参照：[Achieving Nature Positive by “OECMs x Rice Paddies” – the Promotion of OECM for the Biodiversity Conservation at Rice Paddies](#)

OIUCN 主催レセプションなど

サイドイベントが終わってホッとして遅い昼食を食べていたところ、ジンバブエ名物「虫と肉のプレート」を頼んだ人がいて、虫を 2 粒ほどいただきました。珍味ではありますが、みんな、わりと平気に食していました (パン付きで 10 ドル。同じ値段で大盛可)。でも、もういない (頼まない)。[編集註：写真右が調理前の虫]



夕食は、ラムネットJも会員であるIUCNのレセプションに招待されました。眼下にはビクトリア滝に続くザンベジ川が流れ、空には満天の南半球の星空が広がる、素敵なカフェでの立食パーティでした。食事もジンバブエに来てから一番おいしかったです。



明日からも頑張って本会議をフォローします。